

第 121 回 東葛しぜん観察会

みどりの回廊で、冬こそ楽しい！ 自然ウォッチング

渋谷 孝（市川市）

日 時：1 月 16 日（土）10 時～12 時 30 分 天気：晴

場 所：北国分駅～堀之内緑地～堀之内貝塚公園～じゅん菜池緑地（市川市）

参加者：20 名、指導員 23 名

担当指導員：渋谷（孝子）、渋谷（孝）、米澤（裕）

今回は、市川市の北西部、林・水辺・公園をつなぐ「水と緑の回廊」の東半分を歩きました。当日は運良く晴れ、風もなく穏やかな天候で、参加者は「林の中を歩くだけでも気持ちいい」と言う方が多数。冬だからこそ楽しめる自然を体験しよう、というのがテーマで、主な観察対象は三つ。

一つ目は冬芽。春に葉や花を広げるために、冬でもその準備を進めていて、木によって様々な形状で冬の寒さを防いでいるところを観察してもらいました。冬芽をルーペでじっくり見るのは初めての人も多く、「面白い！」という人もいれば、「うーん…」という感じの人もいましたが、多様な冬芽があることに気づけば、今後木を見るときに、冬芽にも注目してもらえるでしょう。班によっては、子供向けの「ふゆめがっしょうだん」（福音館書店）という本を使って、「拡大するとこんな姿なのですよ」「今日見た冬芽以外にもこんなにたくさんありますよ」と解説し、ルーペで実物を見てもよく分からない、という参加者にも好評だったようです。

二つ目は樹木の樹皮。模様を見るだけでなく、実際に触って、ゴツゴツ・ツルツル・冷たい・暖かいなどの違いを感じてもらいました。途中、堀之内貝塚公園を通過して、通路に大量にある貝塚の貝を見て、縄文時代の地形や人々の生活を解説。また、すぐ横の谷に建設中の外環道を眺め、10 年ほど前、今の工事現場は畑や原っぱだった頃には、貝塚公園付近にフクロウ、ノウサギ、ネズミなどが生息していたものの、今は全く見られなかったこと、逆に、工事現場のすぐ隣の林で人が立ち入り禁止の区域に猛禽類が来るようになったことなど、人と開発と生き物の関係を考えてもらいました。

三つ目は、じゅん菜池緑地に集まっている冬鳥のカモやカモメなどの観察です。人が来るとカモの方から寄って来ますが、以前大量にパンを与える人がいたせいです。野生生物にエサを与えることの問題点を解説しました。

今回のコースは、車の通行量が多く危険な道をいくつも渡りましたが、スタッフの誘導で無事終了できました。

「水と緑の回廊」の残り半分も、是非観察したいですね。

